

機が熟してくると書けるものであると思う。それは単に四年後半、とり分け10月ぐらいに必ずやってくるものとは限らない。それで、何月までには何をどこまでやらなければならないとか、夏休みこそが勝負の時期だと良く聞かされたりもするが、そんなことには一切構う必要はないと思っている。私の場合もそうであった。原書(英文)の量が多く、夏休みには相当量を消化しないと無理だろうと思っていたが実際には夏休みには一冊も満足には消化していないのである。先輩に尋ねてみた。一日にどれくらいのページが読めるものだろうか。答えは普通で30ページだった。毎日30ページ読んだとして、20日はかかる量の英文が置かれてあったのは、11月の初旬である。もともと怠惰な自分の性格を知り尽くしているのだから、20日間も毎日英文とニラメッコできるわけではないという気持を抱いた。とても間に合わないだろうと思った。実際、ゼミ等で英文要約をしてきたが、一時間分の予習をするのに一週間かかってせいぜい20ページやっていくのが私の読解能力だったからである。

だが、結果として私は12月中頃から清書に入ったのである。その間に自分でも不思議なくらいハイピッチで英文を消化していった。神がかりときえ今では思えるほどである。やりながら、前述のS先生の言われた「熟機」がこれなんだと思った。この

時ばかりと私は自分に暗示をかけながらやった様な気がする。

そのひき金になったのは、卒論提出のメ切の迫りと、何としても卒業するのだ、卒論ごときで留年してたまるか(他の単位は全て取っていたから)という気持、それと就職決定の報であった。契機はともあれ、このような「熟機」は必ず卒論に向かって人間にはやってくるものだろうと思う。それを逃がさないことであろう。他人の進度で焦ることは無い。例えば12月20日前後に急激にスランプに陥った私の友人も、その時ばかりは危ないぞの感觸を持ったものだが、やはり提出できたのだから。

ここまで書きなぐってきた感じだが、いろいろ文章に脈絡もない点があると思うが、もう一言、1月10日のメ切だけは何とかならないものなのであろうか。同じ総合科学部内でコースによってメ切が違うのも不満の一つであった。教育学部高校は1月16日メ切であるが、それでも1月中には発表会を開く。我々は2月末までそれを待たねばならない。2月末の卒論審査ならばもう少しメ切を遅くすることも可能ではなかろうか。それも、早々に出してしまったために少々ボケ気味の日々を送っている今日この頃の生活にその原因がありそうな気もしているのであるが。

1月21日記

コース	氏名	論文題目名	コース	氏名	論文題目名
地域	居内 秀樹	わが国における外国語教育の変遷	地域	学頭 一成	問題について
〃	池田美津子	荘子と寒山	〃	梶本 法子	ファン・アイク兄弟作 「ガンの祭壇画」研究序説
〃	井星 英	中国近代農村社会における同族について	〃	河合 恵子	神仏分離とその展開過程 広島島の神楽
〃	塚田 守	アメリカの価値観の防衛 —第2次KKK運動の場合—	〃	河内 靖	—その現状と問題点— ミケランジェロ芸術試論
〃	松岡 敏勝	倉田百三論 —百三の理論信仰を中心に—	〃	川村紀美子	—メディチ家礼拝堂研究— 漂流民の研究
〃	心山 芳典	日本統治下朝鮮における皇国臣民化教育に関する研究	〃	北 美智子	ルソーと音楽
〃	岡崎 誠	アメリカと朝鮮半島 1945~50 —朝鮮戦争勃発の背景—	〃	木下 素子	現代マンガ読者の思想
〃	岡本 純子	アメリカのコンミュニズムの展開 食品・医薬品における消費者問題を中心にして	〃	久保美智恵	彭湃と海豊農民運動
〃	小田 淳子	Hawthorneの作品における罪の	〃	小西 聡	インドシナ戦争とベトナムの山地少数民族
			〃	小林美津子	日本近代化における詩人の運命 —萩原朔太郎の日本回帰—
			〃	小松 出	「中国共産党の農業政策」 —大躍進期における大衆動員

コース	氏名	論文題目名	コース	氏名	論文題目名
		について—			比において—
地域	佐々木克之	フィリピン基層社会の構造 —儀礼的親子関係からのアプローチ—	地域	吉永喜久代	農耕儀礼にみられる靈魂観念 —沖縄・東南アジアをめぐる—
〃	佐々木はるみ	公民権運動における人種平等会議(CORE)の活動について	〃	清水久仁子	Richard Hoggart: The Uses of Literacy 論 —リタラシーと文化の問題—
〃	神野 幸子	The Nineteenth Amendment 獲得の背景(米国憲法修正第十九条)	社会	入口 洋	直接民主制の可能性
〃	角 和雄	永井荷風研究	〃	白石 健二	共同体理論の検討 —マルクスとヴェーバー—
〃	高崎 晶子	アメリカ社会の再建 —ジェーン・アダムズの役割—	〃	永富 英雄	労働と管理 —「情報化社会」論批判を通じて見た現代の科学技術—
〃	田代 更子	フランス児童文学の中の子ども	〃	明石 淑見	「社会における宗教現象への一考察」 —マックス・ヴェーバーの宗教社会学をめぐる—
〃	田中 正人	福井平野における条里の展開	〃	石井久美子	アメリカの対アジア政策 —1970年代におけるアジアの国際環境の変容—
〃	土岸 史典	近世芸備地方における製紙業の研究	〃	石田 庄三	産地企業の動向と問題点
〃	中山 富広	幕末維新时期における瀬戸内地方の農民層分解に関する一考察 —安芸国賀茂郡広村を中心として—	〃	伊藤 雅之	食糧自給を考える
〃	難波 直子	Hemingwayの作品における堅実性 —A Favewell to Arms, The Sun Also Risesを中心に—	〃	江口 英則	「1960年代のソ連の軍事戦略」
〃	錦織 典子	近世封建制下における農村社会の女性	〃	小田 広司	対日賠償問題
〃	二宮 宣子	イングランドにおけるリタラシーと教育 —その歴史的考察—	〃	郷田 敦子	子どもの社会化に関する家族と地域の役割
〃	橋本 文夫	ニューヨーク市の財政危機	〃	嶋田 哲治	戦後日本の流通政策の歩みと今日の課題 —小売商業の近代化問題を中心に—
〃	浜岡 正	「地域開発の論理と実態—中国縦貫道沿道地域の場合—」	〃	鋤納 康治	「ウェーベル提案とシムラ会議—印パ分離独立への一過程—」
〃	原田智穂子	なまえのイメージ —現代青年の意識調査から—	〃	谷本 修	新中間層の問題
〃	福原八千代	ヴィクトール・ユーゴの戯曲作品とロマン主義	〃	都川 洋介	ドイツ社会民主党の体制化と寡頭制の鉄則
〃	古谷 綱義	若き日の空海 —入唐以前の空海の修行と思想形成—	〃	中島 良枝	広島平和記念都市建設法と広島市の都市計画
〃	柳本美由紀	アメリカのユダヤ人の"intermarriage"—ユダヤ人少数民族の直面する「同化」と「疎外」の問題—	〃	西沢 義人	独占禁止法と行政指導
〃	矢野ヒトミ	ハーレムルネサンス	〃	畑中 賢一	住宅産業の現状と課題
〃	横山 智子	中原中也研究 —フランス象徴派詩人との対	〃	福島 曜子	我が国の非行と矯正 —現代非行の背景にあるもの—
			〃	松澤 充彦	行政計画と住民参加手続
			〃	三原 裕隆	広島市における中央卸売市場の成立

コース	氏名	論文題目名	コース	氏名	論文題目名
社会	横山 聖司	農業経営における農地転用と土地問題	環境	東山 満男	要因一 広島県佐伯郡湯来町付近の表層地質
情報	渡辺 良次	警察制度の労働社会学的考察	〃	藤本 淳	金属水素化合物の物性
〃	井上 正夫	時系列におけるショック解析	〃	三好 章夫	流体計測への、マイクロ・コンピュータの応用
〃	木島 悟	エンカウンターグループにおけるグループ発展段階と、ファシリテーターの態度認知	〃	有田 光範	帰化率を指標とした瀬戸内海の都市化についての研究
〃	有田 和弘	セルフコントロールの生理心理学的研究	〃	稻積 聖二	愛媛県八幡浜市北部、結晶片岩地域の地質学的環境科学的研究
〃	石黒 義啓	立体音再生における定位の研究	〃	太田 憲良	モリブデンの海洋生物中における濃縮
〃	石塚 芳暢	ラットの弁別学習における生理心理学的研究	〃	金田 典子	再構成膜法による、光合成系Ⅱ(P S II)の初期過程の研究
〃	岡村 元義	一行動と誘発電位の変化一	〃	亀谷 俊行	埋立地における雑草植生に関する研究
〃	神田 淑恵	ストップフロー法による、リゾチームの巻き戻り過程の解析	〃	小林 祐子	副腎ミクロソームのステロイド水酸化に関するテトクロム P-450 について
〃	神田 淑恵	コミュニケーション構造によるリーダーシップ機能認知の変容に関する実験的研究	〃	住野 寿彦	高等植物における環境生理
〃	北原 義典	電子計算機による文字のパターン認識	〃	専坊 玲子	ビンプラスチックのネギ細胞分裂に及ぼす影響について
〃	久保 洋子	クレペリン精神作業検査における動揺測度の検討とその妥当性	〃	高見 利弘	不規則系の理論
〃	栗原 秀剛	Purification and quantitation of RNA from isolated nuclei of rat ascites hepatoma AH-130 cells	〃	高山 宏	地すべり地の、自然放射能探査による防災研究
〃	栗原 秀剛	ラット腹水肝癌 AH-130 細胞の単離核内 RNA の精製及び定量	〃	竹本 裕之	脂質二分子膜の相転移に関する速度論的研究
〃	齊藤 哲夫	選好モデルの一研究	〃	田中 啓子	阿哲台名越層の生物層序とチャート資源について
〃	齊藤 哲夫	—E B A モデルと E B B C モデルの比較研究—	〃	成田 健一	都市気候に及ぼす河川水の影響
〃	坂口 雅一	論理回路の計算機援用設計に関する研究	〃	畑谷 和男	自動車道における汚染質の挙動
〃	澤田 健二	数式処理の研究	〃	平野 幸宏	各種産業廃棄物の微生物による有効利用
〃	永藤 弘恵	児童の遊び形態の規定要因について、特に物理的、社会的環境要因の分析	〃	広瀬 浩一	—微生物による水質浄化— 黒瀬川流域の水環境管理
〃	橋本ともえ	軟体動物歯舌筋における膜電位のイオン機序	〃	前田 昇	水不足農村地域における都市化のあり方
〃	東 裕二	商品の心理的機能と購買行動の関連分析の試み	〃	松浦 謙士	黒瀬川流域の水環境管理
〃	東 裕二	—大学生の場合—	〃	松浦 謙士	—水不足地域における生活排水の再利用—
〃	松村みどり	家族構成要因が両親の養育行動に及ぼす影響についての調査研究	〃	箕田 正治	都市気候に及ぼす河川水の影響
環境	黒岩 祐治	カブトエビの生態学的研究	〃	箕田 正治	<地表面における熱収支構造の違い>
	黒岩 祐治	—東広島市西条盆地における分布とそれを支配する	〃	吉田 静江	レーザー散乱による高分子の分子量測定法
			〃	吉田 静江	瀬戸内海の小豆島周辺底質中の有孔中群集とその環境指標への基礎的研究